

平成30年度 外国人児童生徒等教育に係る研修会(JSL研修会)のお知らせ【終了いたしました】

平成30年4月吉日

関係各位

平成30年度 東京学芸大学国際教育センター

外国人児童生徒等教育に係る研修会(JSL研修会)のお知らせ

平素より大変お世話になっております。

東京学芸大学国際教育センターでは、今年度も、下記の通り日本語を母語としない児童生徒(JSL 児童生徒等)の教育に関わる方々を対象とした研修会を開催いたします。

「日本語／国際学級は担当者の異動がはげしい」といわれます。また、教育委員会管内でも JSL 児童生徒教育に関する必要性には地域差があり、研修実施が困難という声も聞かれます。東京学芸大学国際教育センターでは、こうした熱心な、けれども近くに相談相手のいない外国人児童生徒等教育担当の先生方に「学ぶ場」「つながる場」を提供したいと考え、研修会を実施しております。

学校連絡便、貴管内の学校ポータルサイト等で、関係各所へお知らせいただけましたら、また、先生方のご参加をご支援いただけましたら幸甚です。よろしく願い申し上げます。

記

日程：第1回 平成30年5月12日(土)

第2回 平成30年6月23日(土)

第3回 平成30年10月6日(土)

3回の講座として計画しておりますが、1回のみ参加も可能です。ご相談ください。

時間：10:00～16:30

会場：東京学芸大学(小金井市貫井北町4-1-1) 講義棟

※教室は参加者に別途お知らせします。

研修内容：下記をご参照ください。

参加申し込み締め切り：平成30年5月6日(日)

参加費：無料

お申し込み方法：メール(c-event@u-gakugei.ac.jp)またはファックス(042-329-7722)

で、「東京学芸 大学国際教育センター事務局」宛てに申込用紙をお送りください。

お申込み用紙はこちら([H30JSL 申込用紙 \(1\).docx](#))からダウンロードできます。

お問い合わせ:東京学芸大学国際教育センター教務室 Tel 042-329-7717

なお、プログラムの詳細は国際教育センターホームページで順次ご案内いたします。

平成 30 年度 JSL研修会:コースと概要

1. 外国人児童生徒等教育の概要・基礎を学ぶコース(Aコース)

午前中は大学教員らによる講義を通して外国人児童生徒教育に必要な理論や現状の課題を、午後はベテラン担当者による実践を通じた指導方法を学びます。

講義は、文部科学省「外国人児童生徒教育研修マニュアル」の研修項目から特に担当となって日の浅い方たちに必要とされるものを選び、構成されています。午後は事例を通してJSLカリキュラムの基本を学びながら自信をもって指導にあたるようになることを目指します。はじめて外国人児童生徒指導担当になった方はもちろん、もう一度基本を学びなおしたいという方も参加いただけます。

	午前	午後
第1回	・外国人児童生徒等教育の現状と課題 ・外国人児童生徒等教育担当者の役割	・日本語教室における指導事例の紹介 ・テーマ別交流会
第2回	・日本語指導・授業づくりの考え方 ・日本語指導の実践	・授業づくり① JSLカリキュラムの事例を通して
第3回	・児童生徒の実態把握と指導計画 ・多様な日本語指導の実践を知る	・授業づくり② 実践の検討と授業づくりの振り返り

1. 授業づくり・実践に焦点を当てたコース(Bコース)

このコースでは①の内容をご存知であることを前提に、より実践的な力を高めることを目指します。日本語指導の経験があり、よりよい授業・日本語／国際学級を作りたいと考えている方、地域の中心となることを期待されている方を想定しています。

午前中は講師のこれまでの実践をもとに、授業づくりの考え方や学級運営や体制づくりについて学びます。午後は、JSLカリキュラムの授業づくりを行います。ご自身の授業を改善することはもちろん、JSLカリキュラムの考え方をどのように周囲に伝えていくかについても検討します。

	午前	午後 授業づくり
第1回	・JSLカリキュラムの考え方 実践事例を通した理論の復習と確認	・授業づくり① 午前の講義を受けて
第2回	・実態把握と指導計画	・授業づくり② 指導案・教材の検討
第3回	・授業づくりのポイント ・ポスター発表会	・ポスター発表会・実践の検討 ・授業づくりのまとめ

1. 管理職、指導主事の方

地域や校内の外国人児童生徒指導を考える時、管理職や指導主事の役割は重要です。参加を希望される方の課題意識に合わせて、上記①②を組み合わせたプログラムを用意します。

平成30年度

第1回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:平成30年5月12日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 S講義棟 S103

◆ プログラム ◆

管理職・指導主事コース	Aコース	Bコース
会場 S103		
10:00	開会挨拶	馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)
10:05	はじめに	菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)
会場 S103	10:20 講義1 外国人児童生徒教育の現状と課題	会場 S101 10:20 事例紹介:JSLカリキュラムの授業づくり

<p>吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター)</p> <p>11:10 講義2 年少者への日本語教育と指導担当者の役割</p> <p>菅原雅枝(東京学芸大学国際教育センター)</p>	<p>今澤悌(甲府市立大國小学校)</p> <p>大菅佐妃子(京都市教育委員会)</p> <p>進行:見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター)</p>
<p style="text-align: center;">12:00~13:00 昼食休憩</p>	
<p>会場 S103</p> <p>13:00 事例紹介:日本語教室での指導について</p> <p>進行:濱村 久美(江戸川区立葛西小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導 小川郁子(都立高校非常勤講師) ・教科指導 伊藤敦子(小牧市立大城小学校) ・学級経営 横溝 亮(横浜市立並木第一小学校) 	<p>会場 S101</p> <p>13:00 ワークショップ:</p> <p>目標の設定から授業づくりへ</p> <p>今澤悌(甲府市立大國小学校)</p> <p>大菅佐妃子(京都市教育委員会)</p>
<p>会場 S107</p> <p>15:00 意見交換:地域・学校の体制づくりに向けて</p> <p>ファシリテーター:</p> <p>吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター)</p>	<p>会場 S105・106</p> <p>15:00 テーマ別交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際学級の経営・体制づくり ・日本語・学習指導の方法 ・子どもの実態把握から指導へ ・中高生への指導
<p>会場 S103</p> <p>16:00 全体会</p> <p>16:30 閉会</p>	

第39回 海外子女教育セミナー【終了いたしました】

第 39 回 海外子女教育セミナー

「在外教育施設におけるグローバル人材の育成と派遣教員の役割」

日 時：平成 30 年 5 月 26 日(土) 10:00~16:30(予定)

会 場：東京学芸大学 国際教育センター 合同棟1階 大教室

■■■プログラム■■■

○午前の部 司会:榊原 知美(国際教育センター准教授)

10:00~10:10 開会の挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10~10:55 講演「在外教育施設の現状と課題ーグローバル人材育成への期待と支援策について」

小林 美陽(文部科学省初等中等教育局国際教育課海外子女教育専門官)

11:05~11:50 講演「これからの派遣教員の役割ーグローバル人材の育成に向けて」

中村 雅冶(公益財団法人海外子女教育振興財団理事長・東京学芸大学客員教授)

11:50~13:00 昼食・休憩

○午後の部 司会:菅原 雅枝(国際教育センター准教授)

13:00~15:00 派遣教員による海外での実践報告

秋田美紀子(前コタキナバル日本人学校教諭、守谷市立御所ヶ丘中学校教諭)

柴生 彰 (前モスクワ日本人学校教諭、宮城教育大学附属小学校教諭)

田口 克敏(前アスンシオン日本人学校校長、杉並区立和田中学校校長)

樗木 昭寿(前香港日本人学校小学部香港校校長)

15:00~15:15 休憩

15:15~16:15 パネルトーク「海外での生活をめぐって」

コーディネータ:見世千賀子(国際教育センター准教授)

16:15~16:20 閉会の挨拶 吉谷 武志(国際教育センター教授)

【参加お申し込み方法】

申し込みは、氏名、ご所属、返信用のメールアドレス、もしくは FAX 番号を明記の上、下記宛にメールか FAX にてお申し込みください。

件名「海外子女教育セミナー申し込み」とし、本文に氏名・所属をご記入ください。

* ご質問、ご不明な点につきましても、下記までお問い合わせください。

* 詳細は、随時ホームページに掲載します。

* 5月25日(金)13時までにお申し込みください。

* 席に余裕がある場合は、当時もご参加頂けます。

【お問い合わせ先】

東京学芸大学国際教育センター事務室

Email c-event@u-gakugei.ac.jp FAX 042-329-7722

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 TEL 042-329-7727

平成30年度 第2回 JSL 研修【終了いたしました】

平成30年度

第2回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:平成30年6月23日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 N講義棟 N411

◆ プログラム ◆

管理職・指導主事コース	Aコース	Bコース
10:00 開会挨拶	馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)	
10:05 はじめに	菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)	
@N411 進行:榊原知美(国際教育センター)		@N404
10:20 講義と事例紹介		進行:見世千賀子(国際教育センター)
日本語指導プログラムとJSLカリキュラムの考え方		10:20 事例紹介

<p>菅原雅枝(国際教育センター)</p> <p>日本語指導事例紹介</p> <p>小川郁子(都立高校非常勤講師)</p> <p>濱村久美(江戸川区立葛西小学校)</p>	<p>子どもの実態把握と指導計画</p> <p>伊藤敦子(小牧市立大城小学校)</p> <p>11:20 ワークショップ:</p> <p>JSL カリキュラムの授業づくり</p> <p>今澤 悌(甲府市立大國小学校)</p> <p>大菅佐妃子(京都市教育委員会)</p>
<p>12:00~13:00 昼食休憩</p>	
<p>13:00 ワークショップ:</p> <p>JSL カリキュラムの授業づくり① 目標の設定</p> <p>伊藤敦子(小牧市立大城小学校)</p> <p>小川郁子(都立高校非常勤講師)</p> <p>濱村久美(江戸川区立葛西小学校)</p> <p>横溝 亮(横浜市立並木第一小学校)</p>	<p>13:00 ワークショップ:</p> <p>JSL カリキュラムの授業づくり</p> <p>今澤 悌(甲府市立大國小学校)</p> <p>大菅佐妃子(京都市教育委員会)</p>
<p>会場 N406</p> <p>14:30 意見交換:教員・指導者の研修について</p> <p>ファシリテーター:</p> <p>菅原雅枝(国際教育センター)</p>	
<p>16:00 全体会</p> <p>16:30 閉会</p>	

※第1回目の会場と異なりますので、ご注意ください。

校内に案内の矢印がございますので、ご注意ください。

平成30年度 LGBT教育・支援研修【終了いたしました】

第4回 LGBT(Q)講座
学校のセクシュアル・マイノリティ教育、支援研修
－誰もがありのままの自分でいられる学校のために－

各種の調査によると、LGBTQに属する人、子どもは、今日おおよそ5～7%いることが知られています。しかしながら、現在の学校や社会では、その存在を知り、理解し、学校や社会の構成員としてともに生きるにふさわしい環境が用意されているとは言えない状況にあるようです。とりわけ学校においては、児童生徒に当事者がいることが知られている場合であっても、教師はどのように対処し、受け入れ、周囲の子どもを含む学級や学校でどのように指導すれば良いのか、明確な方針を持たず、困難を抱えているのが現状です。

文部科学省も実態調査(「学校における性同一性障害にかかる対応に関する状況調査について」平成26年6月13日公表)を実施し、学校や教育の場におけるガイドラインを示し(「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」平成27年4月30日)、さらに、教職員に向けて「性同一性障害や性的志向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)」(平成28年4月1日)を示し、この課題への対処を促しています。

本研修は、平成27年度より本センターで企画、実施している研修です。主として学校の教師や教育委員会関係者等を対象に、セクシュアル・マイノリティ(LGBTQ)の児童生徒、その保護者への学校における支援、教育、受け入れ等について、基礎知識の習得、学校、学級の環境作りの講義、当事者との出会い体験などを通じて、セクシュアル・マイノリティ(LGBTQ)に属する児童生徒が差別やいじめの対象とならないような学校作り(ユニバーサルデザインの学校づくり)に資することをめざしているものです。

参加ご希望の方は、以下の方法で事前にお申し込みください。

※定員50名。参加費無料。

申し込み先:メール c-event@u-gakugei.ac.jp

FAX 042-329-7722

申し込み方法:お名前、ご所属、連絡先(メールなど)ご明記の上お申し込みください。

※本研修は、現職教師(教育委員会職員等を含む)を対象とする研修です。

※学生、一般の方のお申し込みにあたっては事前にご相談ください。

問い合わせ:国際教育センター 042-329-7727、又は7726

[infocrie\(a\)u-gakugei.ac.jp](mailto:infocrie(a)u-gakugei.ac.jp)

メールは、(a)を@に変えてご利用ください。

第4回 LGBT(Q)講座
学校のセクシュアル・マイノリティ教育、支援研修
－誰もがありのままの自分でいられる学校のために－

主 催:東京学芸大学国際教育センター

後 援:八王子教育委員会

開催協力:共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ

支援全国ネットワーク(共生ネット)

日 時： 2018 年7月 14 日(土)10 時～16 時50 分

場 所： 東京学芸大学講義棟 S103 教室(会場が前回と異なるのでご注意ください)

■■■プログラム■■■

9:30 受け付け

10:00 開 会

総合司会 見世千賀子(国際教育センター)

開会挨拶 馬場哲生(国際教育センター センター長)

研修内容紹介 吉谷武志(国際教育センター)

10:10 基礎講座1

10:10 ①学校におけるセクシュアル・マイノリティの現状 吉谷武志(国際教育センター)

10:30 ②セクシュアル・マイノリティとは(LGBT(Q)理解のために)

原ミナ汰(共生ネット)大賀一樹(共生ネット)

11:50 ③質疑応答

12:10 休 憩

13:20 基礎講座2

13:20 ④パネルトーク(LGBT(Q)に関する疑問に答えよう！)

14:10 会場移動 (S105、S106)

14:20 ⑤Q&A ここがわからないーセクシュアル・マイノリティとの対話

インフォーマント 6名の講師

Aグループ(S105) Bグループ(S105) Cグループ(S106)

セッション： 1)14:20～14:45、 2)14:50～15:15 3) 15:20～15:45

15:45 休 憩

16:00 ⑦ワークショップ こんな学校にしたい:学校のユニバーサルデザイン(S105、S106)

16:30 交流・総括 (S105)

16:50 閉会 (参加者アンケートにご協力ください)

平成 30 年度 第 3 回 JSL 研修【終了いたしました】

平成 30 年度

第3回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:平成 30 年 10 月 6 日(土)10:00～16:30

場所:東京学芸大学 S 講義棟 S103

◆ プログラム ◆

全体会進行 高嶋由布子(国際教育センター・研究員)

10:00 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

10:05 はじめに 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

.....

IAコース 進行 松井智子(国際教育センター)

10:20 講義 JSL カリキュラム授業づくりの視点と指導計画

菅原雅枝(国際教育センター)

11:00 JSL カリキュラムの授業づくり② 課題の検討とまとめ

小学校低学年 伊藤敦子(小牧市立大城小学校) @S101

小学校高学年 横溝 亮(横浜市立並木第一小学校)@S105

中学校・高校 小川郁子(都立高校非常勤講師) @S106

IBコース 進行 見世千賀子(国際教育センター)

10:20 ポスターセッション 全体会@S207 ポスター発表@201, 202

今澤 悌(甲府市立大國小学校)

大菅佐妃子(京都市教育委員会)

I 管理職コース ファシリテーター 吉谷武志(国際教育センター)

10:20 講義 JSL カリキュラム授業づくりの視点と指導計画(Aコースと合同)

菅原雅枝(国際教育センター)

11:10 ディスカッション 次年度の研修・体制について考えよう @S107

昼食 12:30~13:30

.....

16:00 全体会

16:30 閉会

※ 台風 25 号の接近に伴う JSL3 の開催について

台風接近時のこれまでの本学の対応に倣い、午前7時の段階で、小金井市に大雨、強風の警報が発令されている場合、研修会は中止といたします。(http://www.jma.go.jp/jp/warn/f_1321000.html)

また、開催の場合でも状況によっては、研修の短縮などの可能性もあります。

参加される方は、帰宅時の状況も含めてご自身のお住まいの地域の予報をご確認の上、十分にお気をつけてお越しください。

多くの皆様が、連絡先として職場を登録されており、土曜日の朝開催についてのご連絡をすることは大変困難です。また、会場の関係で、当日センターにお問い合わせをいただきましても、メール電話とも対応いたしかねます。参加されるかどうかは、お一人お一人のご判断にお任せすることになります。この点ご了承ください。交通機関や開催に関する不安がある場合、また早めにチケット等のキャンセルをする必要がある場合は、どうぞご遠慮なく研修会欠席のご判断をなさってください。

なお、中止になった場合や欠席した方への対応につきましては、また別途ご連絡させていただきます。くれぐれも安全第一に、ご無理なさいませんよう、お願い申し上げます。

平成 30 年度 第8回 多文化共生フォーラム【終了いたしました】

2018 年度(平成 30 年度)多文化共生フォーラム

「性の多様性と学校教育の課題—海外の事情と日本の現実—」

東京学芸大学国際教育センター主催

今日、教育現場におけるセクシュアル・マイノリティの子どもたちの存在について、文部科学省の調査や通達、各種の実態調査やアンケートが公表され、社会全体だけでなく教育の場におけるその課題が指摘されるようになってきている。しかしながら、その課題を受け止めるべき学校(教育)においては、課題が認識され、一部の先進的な実践もなされつつあるものの、多くの学校ではその課題についてどのように対応して良いのか、模索され始めたばかりであるというのが現実であろう。

本フォーラムでは、各種の推計によれば学校や社会で5~7%当事者が存在するという現実を踏まえ、学校におけるマイノリティとしてのセクシュアル・マイノリティあるいは LGBTQ と称される子どもたちを取り巻く現状とその課題について講演とパネルディスカッションを通して考えていきたい。

第 1 部では、性の多様性について海外の事情を紹介し、日本の現状を考えるヒントを得たい。さらに第 2 部ではそれをうけて、学校現場でセクシュアル・マイノリティに属する子どもたちに、教師、スクール・カウンセラー、セクシュアル・マイノリティ支援団体の立場から直接関わっている方に登壇いただき、具体的な課題についての指摘とその解決に向けての提案を受ける。

本フォーラムでは、こうしたディスカッションを通して、性の多様性に対して学校では何ができるのか、何をすべきなのか、課題解決に向けてのヒントを得たい。

■日時:2019年2月2日(土) 13時~17時

■会場:東京学芸大学S講義棟2階 S203

■参加費:無料

■定員:80名

※参加ご希望の方は、以下の方法で事前にお申し込みください。(締切 1月23日)

申し込み先:メール c-event@u-gakugei.ac.jp FAX 042-329-7722

申し込み方法:お名前、ご所属、連絡先(メールなど)ご明記の上お申し込みください。

問い合わせ:東京学芸大学国際教育センター 上記のメール、もしくは 042-329-7717、7727 へ

◆プログラム◆

13:00 開会

13:10 趣旨説明 吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター 教授)

13:30 第1部:講演

講演1:渡辺大輔(埼玉大学 准教授)

「海外における性の多様性と学校、教育、支援 —フィンランド、カナダ、台湾の事例から—」

講演2:原ミナ汰(NPO 法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク:共生ネット)

事例紹介「相談現場から:思春期における自己探求、自己表明への対応~アメリカの

教育現場におけるカミングアウトのサポートから学ぶ~」

15:40 第2部:パネルディスカッション

「学校のセクシュアル・マイノリティの今、これから—日本の現実について—」

学校教師の立場から ながみつまき(多様性を目指す教員の会)

スクール・カウンセラーの立場から 大賀一樹(共生ネット)

支援団体の立場から 原ミナ汰(共生ネット)

コメント:渡辺大輔(埼玉大学 准教授)

16:50 閉会

第 11 回 国際教育センターフォーラム(プログラムが一部変更になりました)【終了いたしました】

違和感を通してお互いを知る

—文化間対話から共生は生まれるか?—

異なる文化をもつ人々とのやり取りの中で、想定外の相手の行動や考え方に驚いたり戸惑ったりした経験はありませんか。反対に、自分が当たり前だと思っていたことについて、非難されたり、称賛されたりして不思議に思ったことがある人もいるでしょう。このようなすれ違いがより大きな問題に発展してしまったこともあるかもしれません。それぞれの文化には異なる「当たり前」があります。文化的な背景を異にする人々とはこのような「当たり前」を共有しないため、お互いに心地よい関係を築き上げていくためには、人間関係のあり方を一から調整し、新しい共通の「当たり前」を一緒に作り上げていく必要があるのです。そのためには相手の文化について知ろうとしたり、対話をしていこうとする姿勢を持つことが重要なのだらうと思います。

本フォーラムでは、文化的な背景を異にする人々との共生を考える手がかりとして、文化間のズレのしくみやそれを解決する対話のあり方について考えます。はじめに、来場者の皆様にこれまで私たちが科学研究費(*)の助成を受けて開発してきた異文化間の対話を促す簡単なエクササイズに参加していただきます。そのうえで、文化間のズレの構造に関する研究と大学生を対象とした異文化交流授業に関する研究報告をします。異文化間の対話に関心をもつ研究者・実践者の方、学生の方など多くの方のご来場をお待ちしています。

*平成 22~24 年度基盤研究 B「東アジアの大学授業を結ぶ対話共同体への参与過程として生成される集団間異文化理解」および平成 28~30 年度基盤研究 C「対話的異文化理解の教育方法をめぐる実践及び理論的研究」(研究代表: 呉宣児)

日時: 2019 年 3 月 2 日(土) 13:00~17:00

会場: 東京学芸大学 S 講義棟 3 階 S303(東京都小金井市貫井北町 4-1-1)

主催: 東京学芸大学国際教育センター

申し込み・問い合わせ先:

東京学芸大学国際教育センター

Tel: 042-329-7717、7727, Fax: 042-329-7722,

Mail: c-event@u-gakugei.ac.jp

件名「第 11 回国際教育センターフォーラム申込」とし、

本文にご氏名・ご所属・ご連絡先(メールアドレス等)をご明記の上お申し込みください。

定員:80名

申し込み受付中(まだお席に余裕がございます。)

[2019-03 国際教育センターフォーラムポスター.pdf](#)

<プログラム>

* 研究報告を予定されていた呉宣児先生(共愛学園前橋国際大学)は、やむを得ないご都合により登壇がキャンセルとなりました。

12:30～ 受付開始

13:00～13:10 開会の辞 馬場哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

13:10～13:25 趣旨説明 榊原知美(東京学芸大学国際教育センター・准教授)

異文化理解エクササイズ(仮想交流授業)

13:25～14:05 ファシリテーター 榊原知美(東京学芸大学国際教育センター・准教授)

研究報告

14:05～14:35 異文化を「理解する」とはいかなる営みか:おこづかい研究から考える異文化理解
高橋登(大阪教育大学・教授)

14:35～15:05 謝罪と感謝の文化論

山本登志哉(一般財団法人発達支援研究所・所長)

15:05～15:35 日中高校間での交流授業と高校生たちの対話過程

渡辺忠温(東京理科大学・非常勤講師)

— 休憩 —

15:45～16:50 討論

コメンテーター① 塘利枝子(同志社女子大学・教授)

コメンテーター② 佐藤郡衛(明治大学・特任教授)

【報告の概要】

日韓大学の交流授業を通じた他者理解の試み—歴史政治的な素材を用いて

呉宣児(共愛学園前橋国際大学)

日本の授業担当者の呉と韓国の大学授業担当者の崔順子(韓国国際児童発達教育院)は、それぞれの大学で映画を視聴してから、感想文を交換する交流授業を行ってきた。2010年度(交流Ⅰ)には、直接交流はなく映画感想文のみの交換を行い、2016年度(交流Ⅱ)には、直接会い対面交流をしてから映画感想文の交換を行った。交流授業の素材として、歴史・政治的問題も関連して描かれている日韓共同ドキュメンタリー「あんによん・サヨナラ」を用いた。

交流Ⅰの検討結果、日韓の大学生が体験する感情・葛藤の変化に共通性としてみられたのは、(1)まずは、日韓学生とも自分たちの傷をみる、(2)相手の感想文を見て相手の傷を意識するようになる、(3)相手が自分達を見てくれていると感じると、共生への視点が出てくるが、その反対の場合は防御の視点が出てくる、ということであった。

交流Ⅱを検討した結果、交流Ⅰではあまり見られなかった点として、(1)「私」と「わたしたちの国」を分離する傾向や、(2)相手(国)の非を語る場合は、自分・自国の非もセットにして語り、(3)非を語る時、国を一括して語ることを避け、部分に分けて語る傾向があった。これらの結果から、「関わりのない顔の見えない他者」と「関わりのある顔の見える他者」という違いからくる「信頼」という軸が異なり、それは「他者理解」や「関係の断絶と持続」にも何らかの影響があると思われた。

謝罪と感謝の文化論

山本登志哉(一般財団法人発達支援研究所・所長)

人と人のやりとりは「物」や「気持ち」を交換することで成り立っています。この交換がスムーズに行われているときは関係が安定して続いていきますが、どこかにアンバランスが生まれたり、「裏切り」が感じられると、途端に関係は危機に瀕します。

感謝はやりとりを含むお互いの関係を持続させる心となりますし、謝罪は関係に生まれた危機的な状態を修復する手段の一つです。そこまでは文化の違いに関わらず、かなり一般的なことだと思います。

でも謝罪が何についてどのように行われるか、感謝がいつどのように表現されるべきなのか、というその具体的な方法になると、途端にむづかしい問題が発生します。相手の謝罪が謝罪として感じられないとか、あるいはむしろ逆の意味を持ってしまい、不信感を増幅することがあります。感謝がお互いの関係を深めるのではなく、むしろ切ってしまう行為になることもあります。

そのような、ある意味で悲劇的なズレが、文化の違いによって生み出される。そこでは関係の修復、強化への意思が逆の結果を生み出し続けるということが生じるのです。

ではそれは具体的にはどんな形で現れるのでしょうか。そしてそこに共通する仕組みはどういうものなのでしょうか。またどうやってそれを乗り越える道を探せばいいのでしょうか。

<差の文化心理学>(山本 2015「文化とは何か、どこにあるのか」新曜社、高橋・山本 2016「子どもとお金」東大出版会)や<ディスコミュニケーション分析>(山本・高木 2011「ディスコミュニケーションの心理学」東大出版会)の視点から、これらの問題を考えてみたいと思います。

異文化を「理解する」とはいかなる営みか
—おこづかい研究から考える異文化理解—

高橋登(大阪教育大学)

「おこづかい研究」では、日韓中越4か国の研究者が協同で、それぞれの国の子ども達のお金をめぐる生活世界、とりわけ家族、親子、友人関係の在り方を、お金との関わりを軸として描き出してきた。本報告では、最初に私たちがこれまで取り組んできた「おこづかい研究」について結果の概要を報告する。次に、私たちの共同研究から生まれた方法論である「差の文化心理学」、すなわち、異文化を「理解する」とはいかなる営みなのか、私たちの理論的な枠組みについてお話ししたい。

ヴィゴツキーは「昨日の発達」と「明日の発達」を区別し、後者を発達の最近接領域として定義している。ヴァルシナーはこれを敷衍し、前者を past-to-present model、後者を present-to-future model として特徴づけているが、この区別は比較文化心理学と文化心理学の対比とも対応するものであるだろう。後者の系譜に位置する「差の文化心理学」は、異なる文化に属する者が出会うときに生じる力動を理論化するものである。それは流動化が進み多文化化が進む社会で暮らす子ども達の、さらには私たち自身の「明日の発達」を考える糸口ともなるものであろう。